

2023年度 地域連携活動助成金 活動成果報告書

1 活動概要

活動団体名	理工学研究科 建築・都市学専攻 建築学系 設計スタジオB
活動テーマ	三島市中心市街地における市民活動拠点の創出
活動期間	2023年7月28日 ～ 2023年11月30日
主な活動場所	静岡県三島市の中心市街
連携地域 連携団体等	加和太建設株式会社、三島商工会議所、三島市
活動者数	11名 ※ 活動に参加した本大学の教職員及び学生の人数を入力してください。

2 活動内容 ※活動内容や活動成果は地域連携センターHP等で公表します。

活動目的（地域が抱える課題との関係や活動により期待される効果等、本活動が地域の課題解決や活性化につながる事が分かるように記入してください。）

静岡県東部、伊豆半島の北端部、南へゆるやかに傾斜した扇状地に位置する三島市は、江戸時代には東海道三島宿の宿場町として栄えた。富士山の伏流水が各所で湧き出す「水の郷」とも呼ばれ、農業のほか製紙や化学繊維などの軽工業も隆盛した。近年は人口減少・少子高齢化が問題となっているが、首都圏に近い立地で豊かな自然環境から、移住者増加の傾向もみられる。行政主導による持続可能な都市構造・社会の実現に向けた、拠点ネットワーク型コンパクトシティへの転換政策と並行して、民間主導によるユニークなまちづくりの活動（スモールオフィス、ゲストハウスなど）も見られる。

深刻化が予測されている人口減少・少子高齢化に備えるため、本活動では、理工学研究科 建築・都市学専攻 建築学系の授業の一環として、地元企業（加和太建設）が保有・管理する建物のリノベーションによる、市民のまちづくり活動の拠点を創出する計画を策定する。あわせて、その効果を検証するため、策定した計画に基づくポップアップ（仮設施設）を制作し、三島商工会議所が主催する「秋の大通り宿場まつり」に出店し、市民を交えた社会実験を行う。

三島市の人口減少は避けられないと予想されているが、本活動が目指すのは、そのなかでの人口構造の転換である。すなわち、まちづくりを主体的に担う意識を持つ、若い世代の育成である。

そのためには、まちづくり拠点を創出するとともに、複数の拠点をネットワークさせていく必要があるが、本活動では、そのようなネットワークの中核を計画することを目指す。本活動で策定を試みる計画は、民間が保有する施設に公共的な役割を持たせようとするところに大きな特色があるが、この計画は、官と民の連携が必須となることが予想される、地方のまちづくりのモデルになりうるものである。

活動計画（活動目的を達成するための具体的な計画や方法、申請団体と連携地域・団体等がそれぞれ担う役割、過年度の活動実績や次年度以降の継続性等について記入してください。）

本活動は、建築・都市系の学生の建築設計演習を、まちづくりへと実践的に展開するものである。単なる計画にとどまらず、実際に仮設の施設を制作し、市民に使ってもらうことに大きな教育上の特色がある。また、仮設施設を用いた検証は、実際の施設改修に活かされることも予定されている。

関係者の役割は以下のとおりである。

- ・本学の教員・学生：まちづくり拠点創出のための調査・計画・設計・仮設施設の制作
- ・加和太建設：保有施設の提供、若手社員と学生との協働による拠点創出の企画・検討
- ・三島商工会議所：「秋の大通り宿場まつり」への出店協力
- ・三島市：調査協力および計画への助言

理工学研究科 建築・都市学専攻 建築学系では、2021年度より三島市を舞台とした授業を開始し、2022年度には三島市の「共創パートナー」に任命され、市役所の集約移転計画の策定に協力した。これらの実績はメディア等でも取り上げられ、注目を集めている。

<https://www.at-s.com/news/article/shizuoka/1106156.html>

<https://www.at-s.com/news/article/shizuoka/1016052.html>

2023年度は授業としての最終年度であり、これまでの活動の集大成とするが、2024年度以降は、研究室の活動として三島市との連携を継続する予定である。

活動スケジュール

- ・7月28日：課題イントロダクション・レクチャー（生田キャンパス）
- ・8月1日～8月27日：対象地域の事前調査および事前学習・討議（生田キャンパス）
三島の歴史・地勢・人口動態などの情報の収集。地域の課題・要請の把握。法規的な条件の明確化。関連する先行事例、文献の調査・購読、討議など。
- ・8月28日～9月1日：三島市での合宿調査（三島市）
現地視察，レクチャー，現地調査（実測、インタビューなど），計画の全体スキーム構築および現地での中間発表会。
- ・10月1日～10月31日（生田キャンパス）：実施計画の策定（生田キャンパス）
計画の具体化（平面計画および断面計画への落とし込み）、
計画の具体化およびポップアップへの展開、ポップアップの詳細設計。
- ・11月1日～11月2日：ポップアップの制作・準備（三島市）
- ・11月3日：秋の大通り宿場まつりへのポップアップ出展による社会実験（三島市）
現地にてポップアップを出店し、外部有識者等から専門的指摘を受けるとともに、住民の意見調達を行う。
- ・11月4日～11月30日：成果のとりまとめ（生田キャンパス）

活動成果

予備調査を行った上で臨んだ三島市の合宿調査では、11名の授業履修者は3つの班にわかれ、視察、実測、インタビュー調査を行い、それぞれ「LDKサブスク」「MISHIMA CROSS MALL」「CREATIVE MARKET」と題した企画提案を行った。「LDKサブスク」は、サブスクリプションにより最先端の家電や家具を備えた「LDK」を貸し出し、複数の家族がくつろげる開かれた場をつくる企画である。

「MISHIMA CROSS MALL」は、利用者層が分断されているまちなかと郊外をつなぐ、コンパクトなモール施設の提案である。「CREATIVE MARKET」は、「カルチャー×スーパー」をコンセプトとした複合施設の提案であり、くらしに根付いた文化の創出をねらっている。合宿調査後は、上記3つの企画提案をベースとしつつ、それぞれの良いところを複合・発展させるかたちで、ひとつのポップアップ計画を練り上げた。

「秋の大通り宿場まつり」に出店したポップアップ「まちなかのあそびばクロスミシマ」のようす



以上に基づき、連携地域団体である加和太建設が所有する施設を活用するかたちで、11月3日に開催された「秋の大通り宿場まつり」に「まちなかのあそびばクロスミシマ」と題したポップアップを出店した。主なコンテンツは、既存のキッチンを活かしたカスタマイズピザ、履修者が設計したオリジナルビニールクッションを用いたワークショップ、本学の三島での活動を展示するギャラリーであり、郊外に住まう子育て層がくつろげる場をまちなかに創出することを企図している。結果、多くの来場者を得ることができ、普段は交流のないさまざまなユーザーが思い思いに過ごす場をつくり出すことができた。

以上の成果は、加和太建設による今後のまちづくり活動に活かしていく。また、制作したオリジナルクッションも活用する予定であり、すでに地元ロータリークラブの活動などに用いられている。